

赤林伸一

新築の建築家

□3□

和風住宅は開放的で夏

向きの住宅ですが、戦後の日本人のライフスタイルが変化してこたなどにより、住まいは徐々に閉鎖的な傾向をたどっています。

気密性の向上

最近の市街地にある住宅地は、土地の高騰による過密な立地条件や近隣の騒音問題、個人のプライバシーを重視するような住様式へ変化したことなどのため、窓や扉を十分に開放することができなくなっています。

ています。

住まいのプランも個室を重視するように変化していますし、家全体を風が通り抜けて涼しくすこすようなプランを作ると自体が難しくなっています。

しかも住宅設備（エアコンなど）が急速に発達、

昭和四十年代に起きた

公害問題やオイルショックは、このようなエネルギーの無駄遣いに歯止めをかける形となり、省エネルギーの観点からも、太陽熱の利用、住宅の断熱化、気密化が促進されました。

開放型の住宅と閉鎖型

結露防止へ設備工夫

普及し夏の冷房は一般的なになり、ある程度快適な室内の環境を得ることができ、住宅の閉鎖的傾向がますます強くなりま

（高断熱・高気密）住宅の違いは、その断熱性壁や天井、床などの熱の通りにくさを表します）、気密性（すきま風の入り

（高断熱・高気密）住宅の選定を誤るといってもない事故が起きる場合があります。

配慮しなかったために、結露の被害が続出しました。

気密性を向上させることは、すき間が減ることですから、室内の汚れた空気が外に出ていかないこととなります。住宅を断熱・気密化することは室内に快適な環境をつくり、省エネルギーの観点からも有利ですが、これらの問題を解決するための設備や工法が必要不可欠なのです。



開放型住宅の典型である桂離宮

住宅の性能はなまのちあることばすでに書きました。が、断熱性能と気密性能は性能が高ければ良いというものではありません。壁に断熱材を入れると断熱材の外側の温度は低くなり、その部分での結露（内部結露といえます）を促進するものになります。

窓を開けてもすべ隣の家の壁であるとか、道路の騒音がひどくて一日中窓を閉め切って生活しなければならぬ家が増え

た。しかし従来の開放的な和風住宅では効果的な冷暖房が難しく、エネルギーを無駄に使用してしまう欠点があります。

あり、性能の全体のバラ

性能や暖房器具の選定

ています。

（新潟大学工学部助教 授）